

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター
活動報告書
(2014.4.1～2015.3.31)

2015年3月

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター

Regional Innovation Research Center
Graduate School of Economics and Management
Tohoku University

目 次

1. 地域イノベーション研究センターの概要	1
2. 地域の調査研究事業	2
2-1 地域産業復興調査研究プロジェクト	2
2-1-1 プロジェクト概要	2
2-1-2 シンポジウム	3
2-1-3 復興プロジェクト勉強会	4
2-1-4 問題提起研究会	5
2-1-5 学会および論文等での発表	5
2-1-6 書籍出版	5
2-2 地域発イノベーション調査研究プロジェクト	6
2-2-1 プロジェクトの概要	6
2-2-2 新刊書籍で取り上げた 11 事例	6
2-2-3 地域発イノベーション・カフェ 「常識への挑戦」	7
3. 地域の人材育成事業	8
3-1 地域イノベーションプロデューサー塾	8
3-2 地域イノベーション支援人材育成研究会	16
3-3 みやぎ県民大学	20
3-4 関西起業塾	21
3-5 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）	22
4. 地域イノベーション研究センター広報活動	25
4-1 第 3 回国連防災世界会議パブリック・フォーラム	25
4-2 東北大学イノベーションフェア 2014 Dec.	25
4-3 東北復興セミナー	26
4-4 アントレプレナーウイーク	26
5. その他	28
5-1 新聞・雑誌掲載記事一覧	28
5-2 今年度の実施事業一覧	29
5-3 所在・連絡先	30

1. 地域イノベーション研究センターの概要

東北大学大学院経済学研究科は、東北地域における経済・社会問題に関する教育研究の中核的な機関であり、これまで蓄積してきた知的成果と教育研究能力を地域の課題解決と人材育成に活用していく使命を担っている。そこで2005年7月、東北地域のイノベーション能力の向上を通じて地域の産業振興と経済発展に貢献するために「地域イノベーション研究センター」(RIRC: Regional innovation research center)が設立された。

2011年3月に発生した東日本大震災から4年が経過したが、2011年4月より復興調査研究プロジェクトを発足し、2012年度には正式に復興特別経費を財源とする「地域産業復興支援プロジェクト」(5カ年計画)がスタートし、本学の震災復興支援活動の中核的な役割を担っている。

RIRCの主な事業は、地域の調査研究と人材育成を二軸の活動領域として、多様な事業活動を実施している。また、年度ごとの事業計画や予算案および活動実績報告などの重要事項に関する意思決定は、RIRC運営委員会にて協議される。RIRC運営委員には、経済学研究科の教授会構成員が本研究科長より正式に任命される。

2014年度の主な事業活動について、地域の調査研究事業は、「地域産業復興調査研究プロジェクト」と「地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト」(東北活性化研究所との共同プロジェクト)である。そして、地域の人材育成事業は、「地域イノベーションプロデューサー塾」をはじめとして「関西起業塾」、「みやぎ県民大学」、「地域・学生交流プログラム(プロデューサー塾)」などの多様な活動を実施した。また、2015年度から新たな人材育成事業を企画するために、「地域イノベーション支援人材育成研究会」を発足し、地域金融機関を中心とする地域企業の支援者を育成するためのカリキュラム開発を実施した。

2014年度の予算は以下の通りである。主な歳入は、地域産業復興支援プロジェクトが復興特別会計として9,311万円、地域イノベーションプロデューサー塾の入塾料310万円、公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究プロジェクト60万円、プルデンシャル財団からの寄付金167万円、経済同友会(IPPO IPPO NIPPON)からの寄付金265万円、経和会記念財団助成金57万円などを合わせて1億176万円となった。主な支出は、人件費が4,860万円を占めるが、それ以外の直接経費として地域の調査研究事業が2,590万円、地域の人材育成が2,251万円、共通一般事務経費が475万円である。

2011年の東日本大震災以後、地域イノベーション研究センターの事業活動は、予算規模が約30倍、兼任教員と非常勤を除く専任スタッフも1名から7名に拡大し、それだけ多様で社会的な影響力の大きな事業内容になってきた。こうした事業活動はマスコミなどでも取り上げられる機会が増えてきており、東北地域での認知度も向上してきた。

今後も地域経済・社会の発展に後継することが大いに期待されており、有意義な事業活動を推進していきたい。

2. 地域の調査研究事業

2-1 地域産業復興調査研究プロジェクト

2-1-1 プロジェクト概要

2011年3月11日の東日本大震災の発生をうけて、2010年度末に経済学研究科独自のプロジェクト研究経費を申請して、「東北地方太平洋沖地震の被害状況及び復興過程に関する総合調査」を課題とする緊急研究プロジェクトをまず立ち上げた。このプロジェクトはその後、東北大学総長裁量経費や経済学部同窓会である経和会等からの資金的援助等を得て、「地域産業復興調査研究プロジェクト」として活動を継続することになった。2011年4月には、経済学研究科として新たな研究組織「震災復興研究センター」を設置し、上記プロジェクトの実施・運営体制を強化して、東北地域の諸大学、東北経済連合会、東北活性化研究センター、東北経済産業局、中小企業基盤整備機構、県・市町村（自治体）等との連携・協力のもと、震災からの地域復興に向けた調査・研究活動を行ってきた。

初年度の2011年度は、経済学研究科教員の約1/3と東北各地域の経済経営系研究者がチームを組んで、産業、金融ビジネスインフラ、人材ビジネスインフラ、地域社会、マクロ経済把握の5分科会での調査研究を行い、東北地域の産業再生、経済復興のビジョン策定に取り組んだ。さらに、より長期間の復興支援を目指して、2012年度からは文部科学省の支援を得て、震災復興研究センターの専任教員と特別研究員を採用して研究体制を拡充するとともに、復興過程の実態把握を継続調査するために東北地域に本社を有する3万社を対象とする大規模企業調査(回収サンプル約7,000社のパネルサーベイ)を開始するなど調査研究活動を拡大した。なお本事業は、現在、全学の災害復興新生研究機構の8大プロジェクトの1つに位置づけられている。

2013年度は、調査テーマ毎に16のサブプロジェクトチーム（企業アンケート、地域金融、地域雇用、水産加工業、農業、流通業、観光業、製造業、土木建設業、NPO、先進農業と6次産業化・食品マーケティング、再生可能エネルギー産業、スマートシティ、環境未来都市構想(東松島市)、事業革新支援のあり方、復興支援(財政支出)の検証)を構成して調査研究を進めた。

震災から4年目となる2014年度は、2013年度の活動結果を踏まえて、サブプロジェクトチームを拡充・再編し18チームに構成した。「地域社会と暮らし」、「QOL (Quality of life)」、「神戸と東北の比較検証」の3チームを新設し、「農業」と「先進農業と6次産業化・食品マーケティング」の2チームを統合して「農業と6次産業化」チームとした。これによって、被災地における地域社会(コミュニティー)再生と阪神淡路大震災から20年目を迎える神戸の復興かの教訓を本プロジェクトに取り込み調査研究の一層の充実を図ることにした。

調査研究の中間報告として、2014年11月8日に地域産業復興調査研究シンポジウム「新しいフェーズを迎える東北復興への提言ー「創造的復興」は果たせるか、4年目のレビューー」を開催、年度末の2015年3月にこれまでの成果を纏めて、『東日本大震災復興研究IV 新しいフェーズを迎える東北復興への提言ー「創造的復興」は果たせるか、4年目のレビュー』を出版した。また、2015年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議において、パブリック・フォーラムの一つとしてシンポジウム「東北における産業・社会の復興」を企画し、本プロジェクトの成果を発表した(国連防災世界会議については4-1-1参照)。

このほか、震災復興に関する学内外の調査研究の知見と情報の共有を図るための復興プロジ

エクト勉強会や問題提起研究会、他機関との共催事業を開催した。

以下で、2014年度の個別活動実績について報告する。

2-1-2 シンポジウム

(1) 地域産業復興調査研究シンポジウム

地域産業復興調査研究シンポジウム

「新しいフェーズを迎える東北復興への提言

－「創造的復興」は果たせるか、4年目のレビュー－

【開催概要】

- ・日時：2014年11月8日 13:00～17:40
- ・会場：東北大学片平キャンパスさくらホール
- ・主催：東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター
震災復興研究センター
- ・共催：公益財団法人経和会記念財団



【趣旨】

2014年度調査研究の中間報告と位置づけ、被災地企業に対するアンケート調査をはじめ調査分野やテーマごとの6グループによる調査研究報告と復興に携わる行政と民間の代表によるパネルディスカッションを実施、被災から3年をレビューし復興の進捗や到達点を確認して東北が創造的復興を果たせるか、地域全体で考え、広く情報発信を行う。

【プログラム】

*開会挨拶 原 信義 東北大学理事（震災復興推進担当）

*調査プロジェクト報告

- ①「震災復興企業実態調査」（被災地企業を対象にした大規模アンケート調査）
西山慎一 東北大学大学院経済学研究科准教授
- ②産業復興グループ（農業、流通業、観光業など既存産業分野）
土屋 純 宮城学院女子大学学芸学部教授
- ③復興支援グループ（財政、地域金融、建設業など復興を支援する分野）
桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授
- ④再生エネルギーと東北復興（再生可能エネルギーを産業と社会の復興に活かす）
再生エネルギー産業化チーム
柴田友厚 東北大学大学院経済学研究科教授
スマートシティチーム
古谷 豊 東北大学大学院経済学研究科准教授
- ⑤地域社会再生グループ（地域社会の再生を雇用、暮らし、被災者支援の側面からみる）
藤本雅彦 東北大学大学院経済学研究科教授・地域イノベーション研究センター長
- ⑥神戸と東北の復興検証（神戸の経験と教訓を東北へ伝える）
地主敏樹 神戸大学大学院経済学研究科教授

萩原泰治 神戸大学日欧連携教育府府長・大学院経済学研究科教授

＊パネルディスカッション

パネリスト

田所 創氏 復興庁参事官・産業復興総括

千葉隆政氏 宮城県震災復興・企画部 参事兼震災復興政策課長

小野昭男氏 小野食品株式会社 代表取締役

宍倉 栄氏 特定非営利活動法人ジェン グローバル事業部石巻事務所長
司会

増田 聡 東北大学大学院経済学研究科教授・震災復興研究センター長

＊閉会挨拶 秋田次郎 東北大学大学院経済学研究科長

・総合司会 桑山 渉 東北大学大学院経済学研究科特任教授

【実施結果】

＊参加者数

受付参加者：87名

関係者およびスタッフ：20名

＊実施内容に対する評価・感想など

当日会場で実施したアンケートによれば、シンポジウムに対する満足度と評価は総じて高かった（回答者37名中、「満足した」が27名）。震災復興活動において大学に期待することとして、地域再生への具体的施策の提示など調査分析を活かした提言の推進・強化を求める意見などが寄せられている。



パネルディスカッションの様子

2-1-3 復興プロジェクト勉強会

本調査プロジェクトを実施するうえで必要な専門的知見や情報の共有を図るため、関連分野の調査研究を進めている大学、企業、研究機関等の講師を招き計5回実施した。

第1回 2014年4月5日

「10年後の東北を見据えた地域金融機関の役割」

（熊本 均氏 株式会社フィデア総合研究所 理事仙台支店長）

第2回 2014年5月9日

「シナリオシンキングと復興政策」

（西村 行功氏 株式会社グリーンフィールド・コンサルティング 代表取締役）

第3回 2014年6月26日

「被災地での55の挑戦」

（中村 研二氏 株式会社日本経済研究所 政策調査部部長、
河野瀬 功氏 株式会社日本経済研究所 副主任研究員）

第4回 2014年7月5日

「震災復興：阪神・淡路と東北」

(地主 敏樹氏 神戸大学大学院経済学研究科 教授)
「阪神淡路大震災に関する CGE モデルと GIS による分析」
(萩原 泰治氏 神戸大学 日欧連携教育府 府長 大学院経済学研究科 教授)

第 5 回 2014 年 9 月 5 日

「災害と復興の経済学」

(馬奈木俊介氏 東北大学大学院環境科学研究科准教授)

2-1-4 問題提起研究会

調査研究の分野横断的に情報と問題意識の共有を図るため、これまでの調査研究を踏まえて各サブプロジェクトチームから問題提起を行う研究会を計 7 回実施した。

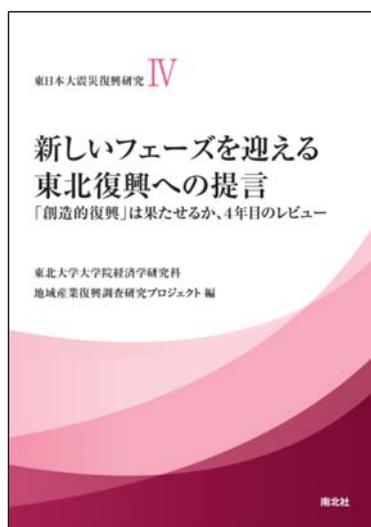
- 第 1 回 2014 年 5 月 22 日 土木建設業チーム、再生可能エネルギー産業化チーム
- 第 2 回 2014 年 5 月 29 日 流通業チーム
- 第 3 回 2014 年 6 月 19 日 NPO チーム、復興財政検証チーム
- 第 4 回 2014 年 6 月 26 日 地域金融チーム、観光業チーム
- 第 5 回 2014 年 7 月 10 日 農業と 6 次産業化チーム、スマートシティチーム
- 第 6 回 2014 年 7 月 24 日 事業革新支援のあり方チーム
- 第 7 回 2014 年 8 月 5 日 地域社会と暮らしチーム

2-1-5 学会および論文等での発表

(本調査研究の書籍およびシンポジウムでの発表は除く)

2014 年度の本調査研究の成果を活かした対外発表実績としては、学会等での発表が 29 回、論文等での発表が 17 本である (2015 年 3 月 31 日現在の確認分)。

2-1-6 書籍出版



2014 年度の調査研究の成果を書籍 (東日本大震災復興研究 IV) に纏めて 2015 年 3 月上旬に出版した。

書籍は、序論「はじめに」とまとめ「おわりに」を挟んで 6 部構成となっている。第 1 部 (震災復興企業実態調査) では 3 回目となる被災地の企業を対象にしたアンケート調査の分析、第 2 部 (産業復興) では農業、流通業及び観光業といった各産業の復興状況、第 3 部 (復興支援) では復興財政、地域金融及び建設業の復興支援への役割、第 4 部 (地域社会再生) では地域の雇用、市民アンケートに見る地域社会と暮らし、被災地の QOL (クオリティ・オブ・ライフ) 及び NPO 活動、第 5 部 (東北復興への新しい流れ) では再生可能エネルギーの普及と地域振興、経済再生とエネルギーマネジメント及び災害後の起業活動、そして第 6 部 (神戸と東北の復興検証) では

阪神淡路大震災を経験した神戸と東北の復興について、それぞれ担当するサブプロジェクトチームが執筆した。

2-2 地域発イノベーション調査研究プロジェクト

2-2-1 プロジェクトの概要

日本社会は前世紀に高度に経済を成長させ成功経験を享受してきた。私たちは、その時代の「常識」に縛られていることに気づかずに生活しているのかもしれない。しかし世界が激動する 21 世紀において、私たちはもうそろそろ自分を縛る常識を疑う時期に来ているのではないだろうか。常識に挑戦するには多くの困難がともなう。しかしそれに勇気をもって行動を起こしてきたイノベーターが、東北地域にはいる。

当センターでは、2011 年度より公益財団法人東北活性化研究センターと共同で「地域発イノベーション調査研究プロジェクト」を結成し、東北地域のイノベーターたちへのインタビューを行い、その軌跡と成功のポイントを調査してきた。2014 年度は、常識に挑んだ 11 企業・団体を取り上げた。そして、例年どおりこれら 11 事例を書籍（新刊「地域発イノベーションⅣ」）として出版した。また、この書籍の出版記念として「地域発イノベーション・カフェ」を開催し、新刊書籍の紹介を行うとともに、これらのイノベーターの方々にご登壇いただき、パネルディスカッション形式で常識に挑戦したご経験とそれを支えた勇気についてお話いただいた。本カフェを開催することにより、本プロジェクトの研究成果を一般市民により広く共有してもらうことができた。以下、新刊書籍の章立てと、イノベーション・カフェの開催内容を紹介する。



2-2-2 新刊書籍で取り上げた 11 事例

- 第 1 章 イチゴで儲けないイチゴ農家が産業を変える
「農業生産法人 株式会社 G R A」
- 第 2 章 おいしいリンゴを、いつでも手軽に、新鮮に
「株式会社 アップルファクトリージャパン」
- 第 3 章 情報誌・SNS を活用して 1 次生産者と消費者の関係を再編
「NPO 法人東北開墾」
- 第 4 章 「空気に触れない容器」で「新鮮な醤油」という新たな価値を確立
「株式会社悠心」
- 第 5 章 離島からのイノベーション
「佐渡精密株式会社」
- 第 6 章 常識を覆す画期的な「足こぎ車いす」を事業化
「株式会社 T E S S」
- 第 7 章 もと半導体工場が世界初の腎臓病患者向けレタスを量産
「会津富士加工株式会社」
- 第 8 章 あしたの夢の繊維 クモの糸実用化への挑戦
「スパイバー株式会社」
- 第 9 章 IT 技術者集団が日本の伝統工芸の再生に挑戦
「株式会社ワイヤードビーンズ」
- 第 10 章 楽器産業に革命・憧れのハーブを楽しむ環境を創造
「株式会社グレースハーブ・インターナショナル」
- 第 11 章 ドチャベンで地域を活性化
「ハバタク株式会社」

2-2-3 地域発イノベーション・カフェ 「常識への挑戦」

【概要】

- 日時：2015年2月27日（金）
18：00～20：00（懇親会 20：00～21：00）
- 会場：東北大学片平キャンパス
エクステンション教育研究棟 6階 講義室 A
- 主催：地域イノベーション研究センター
公益財団法人東北活性化研究センター
- 共催：公益財団法人経和会記念財団

【プログラム】

- 開催挨拶 東北大学大学院経済学研究科教授 福嶋 路
- パネルディスカッション テーマ「常識への挑戦」
登壇者：(株) GRA 塔本幸治氏、(株) 悠心 二瀬克規氏、
会津富士加工 (株) 松永茂氏、(株) ワイヤードビーンズ 三輪寛氏、
(株) グレースハープ・インターナショナル 二瓶佳子氏、ハバタク (株) 丑田俊輔氏
コーディネータ：東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター
特任准教授（客員）、
一般社団法人 MAKOTO 代表理事 竹井智宏
- 閉会挨拶 東北大学大学院経済学研究科教授
地域イノベーション研究センター長 藤本 雅彦



3. 地域の人材育成事業

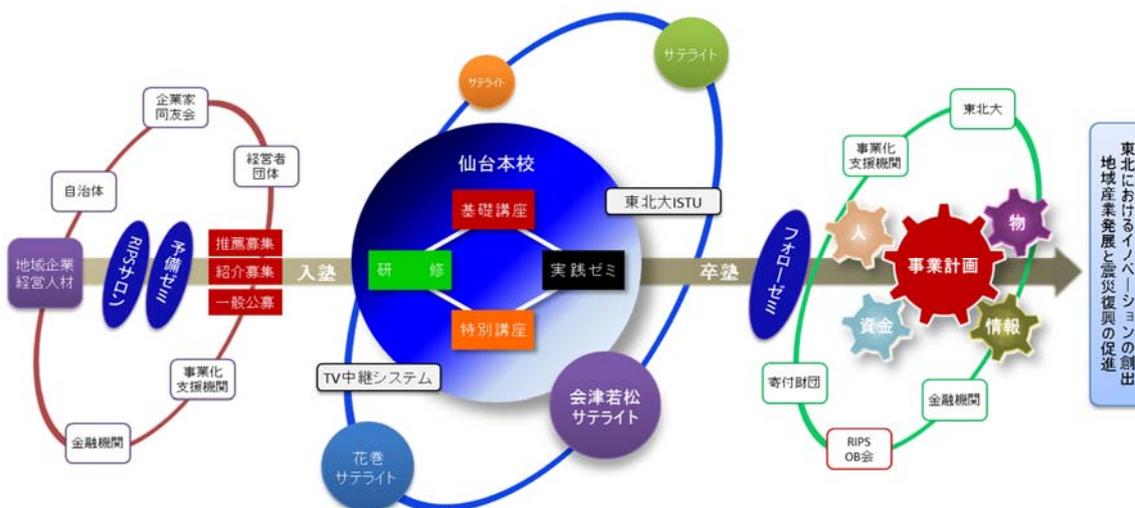
3-1 地域イノベーションプロデューサー塾

(1) 概要

地域イノベーションプロデューサー塾（以下、RIPS）は、地域企業、特に中小企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業である。RIPSは、地域の経営人材が未来を創るイノベーションに挑戦し、魅力的な事業プランを開発し、構想力と実行力を支える知力・スキル・マインドを学習するための場を提供するとともに、卒業後の事業プランの実現化を支援していく。



地域イノベーションプロデューサー塾の概要



【今年度の主要な動き】

- 第2期生となる31名が入塾し、2014年8月30日に入塾式が行われた。
- 2015年2月28日に、成果発表会が行われた。
- 2015年3月7日と8日に、京都で「京都の伝統産業」をテーマに視察研修が行われた。
- 2015年3月14日に、卒業式が行われ29名が卒業した。優れた事業プランを作成した4名が表彰された。
- 米国のプルデンシャル財団より、2014年度より3年間、RIPS卒業生に対する事業化資金として計1億円の助成金が提供されることになり、今年度採択された3事業に対して計2800万円の助成金が提供された。
- 今年度から、RIPS卒業生から選定された「重点支援対象事業」を指導するための「フォローゼミ」がスタートし、今年度は7つの事業に対する定期指導と臨時指導が行われた。

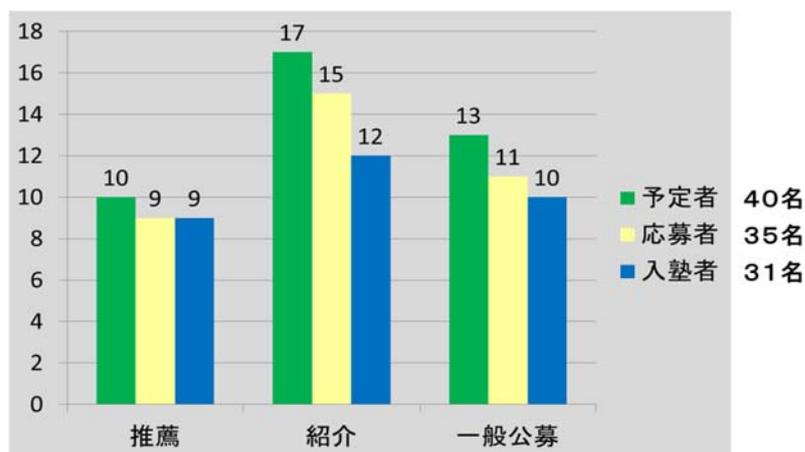
- 今年度の RIPS は、「東北大学履修証明プログラム」として承認され、卒塾生には総長から履修証明書が発行されることになった。
- 今年度から RIPS ニュースレターの発行を開始し、創刊号と第 2 号を発行した。
- 2014 年 5 月 16 日に、RIPS OB 会の設立総会が行われ OB 会が組織され、卒塾後の継続学習と相互研鑽の場として 2 つの研究会が活動を開始した。

(2) 塾生募集

今年度の塾生募集は「推薦募集」、「紹介募集」および「一般公募」の 3 方式で行われた。4 月中旬までに推薦機関と紹介機関を個別訪問して説明会を行うとともに、センターHP に募集要項を掲載し、新聞広告と DM 発送を行った。

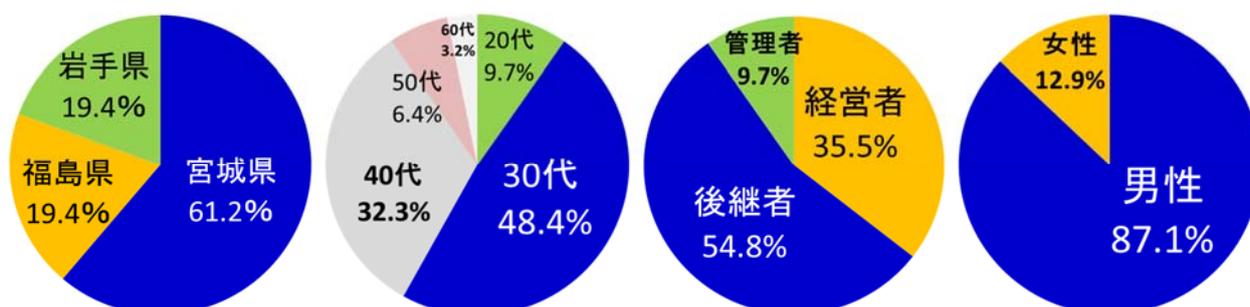
募集結果は以下のとおりである。

2014 年度入塾者募集の結果



	推薦募集	紹介募集	一般公募	合計
仙台本校	9	3	7	19
花巻サテライト		6		6
会津若松サテライト		3	3	6
入塾者計	9	12	10	31

入塾者 31 名の地域別、役職別、年齢別および性別の分布は、以下のとおりである。



(3) カリキュラムと年間日程

今年度のカリキュラムおよび主要な年間日程は、以下のとおりである。総授業時間数は、140 時間を超える。

【カリキュラムの構成】

区 分	内 容	回 数
基礎講座	新事業のデザインに必要な基本的な知識として、ビジネスデザインの原理と方法、デザイン思考、マーケティング、資金計画、技術、知財と法務などについて学習し、またそれを組織として支えるために必要な人材・組織マネジメント、業務改善などについて、講義と議論を通じて学習する。	22 回
特別講座	毎回特定のテーマを設定し、基礎講座の内容とも連動させながら、東北地域の中小企業が新事業をデザインし成功させていくためにもつべき重要な知識や視点として、需要分析と集客のデザイン、ブランド戦略、中小企業の事業承継と海外進出などについて、成功事例を中心に学習する。	8 回
研 修	従来とは異なるイノベティブな取り組みを実現するためには、事業運営に必要な知識だけでなく、実際に組織や関係者に影響力を発揮するための事業家マインドや高度な対人関係スキル、複眼思考スキルなどが要求されます。研修では、演習などを通してこうしたマインドやスキルを習得する。	マインド研修 1 回 スキル研修 3 回
実践ゼミ	塾生自身の事業構想をベースに、「イノベーションを可能にするビジネス設計書の完成」を目指す。実業で活用されている事業設計工程に基づき、演習を中心としたスタイルで、毎回、ビジネス部品をひとつひとつ構築し、最終的に、卒業後に実行可能なレベルの事業プランを組み立てる。	12 回

【主要な年間日程】

2014 年 8 月 30 日(土) ～8 月 31 日(日)	入塾式、入塾研修（成功事例研修、マインド研修）
2014 年 9 月 ～2015 年 2 月	カリキュラムに基づいた授業 （基礎講座、特別講座、研修、実践ゼミ）
2015 年 2 月 28 日(土)	事業プランの成果発表会
2015 年 3 月 7 日(土) ～3 月 8 日(日)	視察研修（京都）
2015 年 3 月 14 日(土)	卒業式、卒業パーティ

【入塾式と入塾研修】

2014 年 8 月 30 日(土)にラフォーレ蔵王の会議室で入塾式が行われた。それに続いて、イノベーション成功事例研修が開催され、塾生が目指すべきイノベーションや事業開発の手本となる事例を学習することによって、RIPSでの学習を方向づけた。



成功事例研修では、(株)コシタカホールディングの代表取締役社長である腰高博氏による「成長へのイノベーション」と題した講演の後、塾生たちとの質疑応答が行われた。既存事業から新商品開発のヒントを見つけた経験や事業の成長を生み出すイノベーションの考え方および海外進出などについて多くの実践的なヒントと挑戦意欲の刺激を受けることができた。

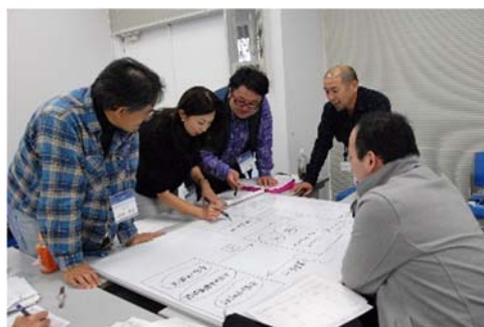


【実践ゼミにおける事業プランの指導体制】

実践ゼミは、受講者自身の事業プランの作成を指導するための授業で、事業概要レポート、事業構想レポートおよび事業計画レポートの作成を段階的に行った。板垣良直特任教授の統括のもとで、少人数クラスを編成し、6人のコーチ（特任准教授（客員））がそれぞれのクラスを担当した。



- 第1課程：第1回～第5回
デザイン思考による演習・実習
- 第2課程：第6回～第8回
仮説と検証
- 第3課程：第9回～第12回
事業設計図とロードマップの完成、
成果発表会の準備



【事業プラン成果発表会】

2015年2月28日(土)には、塾生たちが半年間の学習成果を発揮して作成した事業プランの成果発表会が開催された。RIPSの教員と実践ゼミコーチだけでなく、RIPS運営諮問会議、推薦機関、紹介機関、サテライトからも多くの関係者が参加した。

各塾生が7分間の発表をした後、担当の実践ゼミコーチが2分間のコメントを行った。



【視察研修】

2015年3月7日(金)～8日(土)には、京都を訪問して「京都の伝統産業」をテーマに視察研修を行った。塾生、教員・実践ゼミコーチおよび卒塾生など計31名が参加し、今を力強く生きていく京都伝統産業からイノベーションに向けての多くのヒ

ントと刺激を受けることができた。

2015年3月7日（土）

訪問先：株式会社細尾（代表取締役 細尾真生氏）

開化堂（代表取締役 八木隆裕氏）

株式会社日吉屋（代表取締役 西堀耕太郎氏）

平成27年3月8日（日）

訪問先：京都伝統産業ふれあい館

京都伝統産業の歴史と現在について特別講義と施設見学



【卒塾式】

2015年3月14日（土）に地域イノベーション研究センターで卒塾式が行われ、第2期生として29名に卒塾証書が授与された。そして、優秀な事業プランを作成した卒塾生4名に対する表彰が行われた。



第2期卒塾生とRIPS関係者

【優秀塾生表彰】

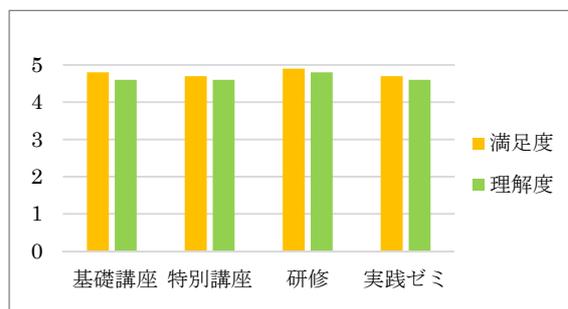
- ベストイノベーション賞：田中穂光氏
（(株)ガーデン二賀地）
- 優秀賞：鶴川佳子氏（耐南商事(株)）
菅井伸一氏（(株)ヒロセ）
厨勝義氏（(株)アイローカル）



(4) 結果

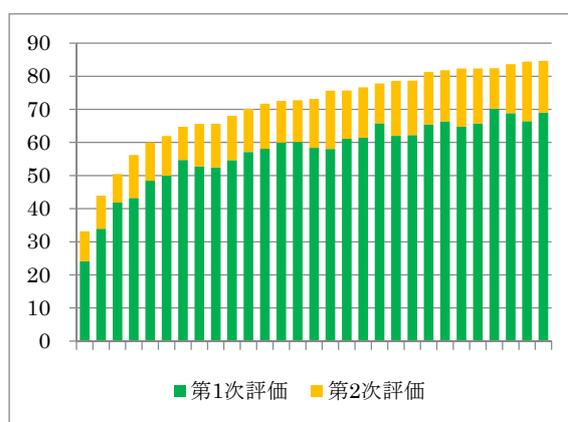
【授業アンケートの結果】

すべての授業について授業アンケートを実施して塾生の満足度と理解度を確認することによって授業の内容と方法に対する塾生の反応を把握した。講座ごとの満足度と理解度についての結果を総合すると、右図のとおりで、おおむね良好な結果となった。



【事業プランの評価結果】

塾生が開発した事業プランについては、2段階の評価を行った。第1次評価は、各塾生の事業プランについて実践ゼミコーチ陣が経験デザインと価値創造、事業モデルと事業システム、ロードマップ、資金計画および地域貢献などの項目を用いて100点満点で採点した。第2次評価は、成果発表会での発表を聞いてRIPS運営会議委員6名が20点満点で総合評価を行った。第1次と第2次の評価点数を合計して順位付けを行った。その結果は右図のとおりで、最高点は84.6点、平均点は70.9点である。



(5) 卒塾後の重点支援

今年度から、RIPS 卒塾生の中から選定された「重点支援対象事業」に対する卒塾後のフォローアップが開始され、今年度は7つの事業に対して重点指導が実施された。その中には、プルデンシャル財団助成金事業に採択された3事業が含まれている。

2014年度の重点支援対象事業

氏名	所属機関	事業名
伊勢ちかこ	イリナ・ミュージカル(合)	ミュージカル体験によるパーソナルグロウアップ事業
阿部章	(有)パルコ	次世代型券売機システムの開発と店舗開業運営支援システム
三輪寛	(株)ワイヤードビーンズ	職人とのモダン製品の継続的な開発と、流通販売の仕組みを構築
箱崎陽介	ハコショウ食品工業(株)	日本伝統の「だし」生成技術の活用による食のあたらしい価値創造
関昌邦	(株)関美工堂	ライフ・アーカイブ・プラットフォーム・ビジネス ～あなたの日々を記録するプラットフォーム事業～
齋藤栄太	齋栄織物(株)	次世代シルク糸の開発による高機能シルク織物の開発と国内外への販路開拓
高橋敏宏	(株)アエラ住設	いつも素敵で快適なライフステージ対応住環境商品の開発と提供

定期的なフォローゼミは、年に4回（6月、9月、12月、3月）開催され、臨時指導は合わせて13回実施された。指導には、板垣特任教授の統括のもと、実践ゼミコーチ陣が担当した。

(6) RIPS 公開講座および地域との交流

今後の塾生開拓および地域社会に対する RIPS 広報のために、今年度は以下のように RIPS 授業を一般に公開するとともに、地域との交流活動を積極的に行った。

【RIPS 公開授業】

- 2014年9月30日(火) 会津若松サテライトで公開授業
- 2014年12月9日(火) 花巻サテライトで公開授業
- 2015年1月13日(火) 花巻サテライトで公開授業
- 2015年1月20日(火) 会津若松サテライトで公開授業

【地域との交流】

- 2014年8月27日(水) 宮城県中小企業家同友会企業交流会
- 2014年11月29日(土) 地域イノベーションプロデューサー塾「白石講座」
- 2015年1月26日(月) 仙台商工会議所青年部との交流会
- 2015年2月12日(木) 仙台商工会議所青年部研究会

【いしのまきイノベーション企業家塾への支援】

当センターは、2014年5月に石巻信用金庫が開講した「いしのまきイノベーション企業家塾」に対して、その構想段階から運営体制やカリキュラムの開発などについて協力させて頂くとともに、講師を派遣するなどの緊密な連携を行っている。また、この塾の卒業生には RIPS への推薦入塾が認められる。

(7) プルデンシャル財団助成事業

東北大学と米国に本拠地をおくプルデンシャル財団は2014年6月に共同で記者会見を開き、財団が RIPS 卒業生に対する事業化資金として2014年度から3年間で約1億円（年間約3000万円）を支援すると発表し、2014年度の採択者3名に対して目録伝達式が行われた。

プルデンシャル財団のラタ・レディー理事長は、「被災地の経済復興のために将来のビジネスリーダーを育てようという東北大学の取り組みに協力できてとても光栄です」と述べ、RIPS への大きな期待感を表明された。2014年度の採択者は一次審査（書類審査）、二次審査（外部審査委員会、審査委員長：守本憲弘東北経済産業局長）による面接審査を経て下記の3名が選定され、合計2800万円の助成金が交付された。

2014年度プルデンシャル財団助成事業の採択事業

採択者名	会社名	事業名	助成金額
伊勢ちかこ	イリナ・ミュージカル(合)	ミュージカル体験によるパーソナルグローアップ事業 ～東北発、ブロードウェイ・エンターテイメント・イノベーション～	1,000万円
齋藤栄太	齋栄織物(株)	次世代シルク糸の開発による高機能シルク織物の開発と国内外への販路開拓	1,000万円
箱崎陽介	ハコショウ食品工業(株)	日本伝統の「だし」生成技術の活用による食のあたらしい価値創造	800万円

(8) 東北大学履修証明プログラム

履修証明プログラムは、本学において体系的な知識、技術等の習得を目指す「特別な課程」として編成された、120時間以上の教育プログラムの修了者に対して、総長より履修証明書が交付されるものである。2014年度のRIPSは、本学の履修証明プログラムとして承認され、修了者29名に対して履修証明書が交付された。

(9) RIPS News Letter 発行

今年度から、推薦機関などの協力機関、卒塾生、在塾生および地域社会に対する情報提供と広報活動の一環として、ニュースレターを発行することにした。今年度は2014年12月に創刊号、2015年3月に第2号を発行し、主要ニュース、在塾生および卒塾生の動向、塾生募集案内、RIPS OB会の研究会案内などの情報を掲載した。



(10) 課題および来年度に向けて

すべてのカリキュラムが終了した時点で、RIPSの全般的な諸事項について塾生アンケートを実施し、主要な問題点や課題を明らかにすると同時に、来年度に向けて以下のような改善策を講じることにした。

2015年度 RIPS のための主要な改善点

項目	課題・理由	改善点
カリキュラム関係	科目適合性の向上	一部の科目を入れ替えて、大局観および知財の内容などを強化する
	研修の内容・実施体制の改善およびプレゼンテーション能力の向上	従来の外部機関による「スキル研修」を取りやめ、スキル研修の趣旨をより明確にし、内部教員による研修を実施する
実践ゼミの指導体制	事業プラン指導における一貫性の確保	担任制を導入して一人一人の塾生に対する指導の一貫性を確保する
	ファシリテーション機能の強化	コーチ間の役割分担を明確にし、ファシリテーションの専門家による実践ゼミの活性化をはかる
	経験デザインの指導強化	第1課程の終わりで個別面談を実施し、必要に応じて個別指導を行う
	プレゼンテーション・スキルの向上	第1～第3課程の終わりでプレゼンテーションを経験させる仕組みを導入する
	実践ゼミの最終段階の指導時間の不足	実践ゼミの最後半（第11回と第12回）において、午前の時間帯を「実践ゼミ」にまわす
授業態度	遅刻およびレポート提出期限厳守の問題	事前周知を徹底し、全塾生の出席・遅刻／レポート提出の状況を可視化すると同時に、イエローカード制度を本格実施する

(11) RIPS OB会の立ち上げと研究会運営支援

2014年5月16日に、RIPS OB会の設立総会が行われ、OB会が正式に組織された。OB会は卒業後の継続学習と相互研鑽の場として機能し、東北地域を活性化するイノベーションプロデューサーのネットワークとして成長していくことが期待されている。OB会の2つの研究会も動きだし、今年度は「経験デザイン研究会（EDS）」が4回、「事業実践研究会（BPS）」が2回開催された。これらの研究会は卒業生たちの継続学習と相互研鑽の場となっている。また卒業生たちは、OB会活動を通じて、事業上の相互協力を行うとともに、東北地域におけるイノベーションの創出に貢献していく。

RIRCは、これらの研究会活動を支援するとともに、ホームページにOB会専用サイトを設けて会員情報の共有、イベント開催の案内および会員同士のコミュニケーション支援を提供している。



3-2 地域イノベーション支援人材育成研究会

RIRCでは、東北財務局及び地域の主要な金融機関のご協力を得て、「地域イノベーション支援人材育成研究会（以下「研究会」という）」を設置した。研究会では、地域中小企業経営者に対し支援する人材のあるべき姿、すなわち育成すべき人材像やカリキュラム等について検討を行った。RIRCでは研究会の検討結果を踏まえ、27年度に「地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）」を試行的に実施し、28年度から本格実施を行うこととしている。

(1) 地域イノベーション支援人材育成研究会設置の経緯

・2013年10月

地域イノベーション研究センター運営会議において、地域イノベーションプロデューサー塾に加え、金融機関職員等の支援人材を育成する新たな塾の設置の可能性を検討することとし、ニーズ、課題の明確化のための予備調査を行うことを決定。

・2013年11月～12月

金融機関、産業支援機関等に予備調査を実施。結果は概ね次の通り。

①金融機関においては、経営指導、コンサルティング能力向上のための人材育成はほとんど行われていない。②座学だけでない実習が必要 ③銀行員だけではなく、商工会議所の指導員の能力を磨くことも必要。④コースを複数設けて選択できるようにするべき。等

・2013年12月

東北財務局長来学。地域金融機関のコンサルティング力（支援力）向上のための方法等について意見交換。今後連携して育成方法を検討していくことを相互に確認。

・2014年6月～7月

文科省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に経済学研究科として応募。構想の重要性、具体性について評価されるも不採択。

- 2014年10月

東北財務局と地域の産学官金が連携して人材育成に取り組むことが重要との認識で一致し、連携して金融機関を中心とする支援人材育成プログラムを作って地域ぐるみで支援者を育成し、事業革新する経営者を増やすことについて合意。

- 2014年10月～2015年2月

東北経産局主催支援人材サミット（分科会）開催。藤本地域イノベーション研究センター長が分科会座長に就任。金融機関職員等を含む「伴走型支援人材」の育成の重要性等について関係者間で合意。

- 2014年11月～12月

関係金融機関に対し、東北財務局とともに、「地域イノベーション支援者育成プログラム研究会」設置に関する説明及び委員就任要請。

- 2015年1月

「地域イノベーション支援人材育成研究会」検討開始。以降5回開催。

- 2015年3月

「地域イノベーション支援人材育成研究会」における検討終了。

(2) 研究会設置の背景と目的

東北地域が震災からの早期復興、経済再生・発展を果たすためには、一時的な建設ブームの反動を乗り越えるための地元中小企業による事業革新が不可欠である。しかしながら、東北地域にはロールモデルとなる事業革新の事例も少なく、革新的事業を構想し実行する経営人材を育成し支援するための仕組みが必ずしも十分整備されているとはいえない状況にある。こうした状況を踏まえ、本学では平成25年度から地元企業の事業革新を支援し革新的経営人材育成を目指す「地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）」を開講し、年間30～40名を受け入れている。しかし、地元企業に最も身近な経営支援を担う地域金融をはじめとする支援機関の指導人材の育成システムに関しては、未だ整っておらず地域産業界、金融業界、大学、行政機関の連携により早急に整備することが求められている。そこで、新たに「地域イノベーション支援人材育成プログラム」（仮称）を開講し、地元企業の事業革新支援に携わる地域金融機関などの支援人材を対象とした人材育成システムを地域ぐるみで構築することによって、革新的経営者の発掘（目利き能力の向上）、事業革新の支援・指導能力の向上等を図り、RIPSから輩出される革新的経営人材育成と相まって地域経済の再生と発展に貢献する。

(3) 研究会メンバー

○委員会座長

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター長・教授

藤本 雅彦

○委員

岩手銀行 地域サポート部長

佐藤 達哉

北日本銀行 取締役営業統括兼地域事業支援室長

坂本 篤志

花巻信用金庫 専務理事

漆沢 俊明

七十七銀行 地域開発部参与

大川口 信一

仙台銀行 取締役地元企業応援部長	佐藤 彰
石巻信用金庫 人事部長	遠藤 正弘
東邦銀行 法人営業部長	齋藤 哲
会津商工信用組合 地域成長支援部部長	武田 義幸
東北大学大学院経済学研究科副研究科長・教授	金崎 芳輔
同 地域イノベーション研究センター総括プロデューサー・教授	権 奇哲
同 地域イノベーション研究センター特任教授	板垣 良直
同 地域イノベーション研究センター特任教授（客員）	池谷 昌之
○オブザーバー	
東北財務局 理財部長	金森 正樹
○事務局	
東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター 地域連携室長	富澤 辰治
同	
事務室長	倉田 美子

(4) 検討内容とスケジュール

第一回 平成 27 年 1 月 8 日（木）

「各金融機関における事業（革新）支援及び支援人材の育成に関する現状と課題」

第二回 平成 27 年 1 月 23 日（金）

「育成すべき人材像、習得すべき能力、プログラムの対象者、育成期間 等」

第三回 平成 27 年 2 月 6 日（金）

「事業革新支援に必要とされる教育内容、カリキュラム（Ⅰ）」

第四回 平成 27 年 2 月 20 日（金）

「事業革新支援に必要とされる教育内容、カリキュラム（Ⅱ）」

第五回 平成 27 年 3 月 6 日（金）

「まとめ」

(5) 検討結果

○RIRC では研究会の検討結果を踏まえ、27 年度に「地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）」を試行的に実施し、28 年度から本格実施を行うこととする。

○RIAS は「ベーシックコース」と「アドバンスコース」を設ける。

○なお、今後の課題として、次の 2 点が挙げられた。

①10 年程度の長期的な視点で、東北地域の「産・官・学・金」の総力を結集した地域企業の事業革新の支援スキームと体制の創設。

②支援スキームの安定的な運用を支える財務基盤等の確立。

【地域イノベーションアドバイザー塾の二つのコース】

名称: 地域イノベーションアドバイザー塾 (Regional Innovation Adviser School)		
	ベーシックコース (Basic Course)	アドバンスコース (Advanced Course)
育成する人材像	地域経済発展に向けて志と情熱を持ち、革新的事業の目利きができて経営者を支援することができる人材	ベーシックコース修了者で、革新的な事業計画の立案・作成等の高度な支援力を有する人材
開講期間	5月～7月(隔週土曜日: 全7日) ※初回は1泊2日の合宿	10月～翌年1月(隔週土曜日: 全7日)
受講対象者	30名程度 対象者は30代を中心に、派遣する金融機関の判断により各機関から原則1名	7～8名程度※ベーシックコース修了が条件
募集期間(選考)	3月中旬～4月中旬 (選考なし)	9月1日～9月末 (定員超過の場合は10月上旬選考)
受講費用	30万円	30万円
修了要件	全7回の授業に全て出席 ※欠席の場合はISTUにて講義を視聴して1週間以内にレポートを提出すればOK	全7回の授業のうち5回以上出席
認定制度	ベーシックコース修了証の授与	「地域イノベーションアドバイザー」(仮称)として認定 ※東北財務局HPにも氏名を掲載を検討

【ベーシックコースのカリキュラム】

ベーシックコース	10:30～ 12:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	備考
5月9日(土)	入塾式 (オリエンテーション)	経営者との交流 (経営者の経験、視点、発想を理解する)		業界研究Ⅰ(研究計画立案)	・合宿により行う(遠刈田温泉、ラフォーレ蔵王)※懇親会あり ・経営者数人によるパネルディスカッション、議論 ・合宿二日目の外部専門講師による研修
5月10日(日)	コーチングスキルと支援者マインド ※8:50～16:10				
5月23日(土)	経営管理Ⅰ	経営管理Ⅱ	経営管理Ⅲ	業界研究Ⅱ(情報収集・分析)	・経営管理では、企業、組織、戦略、リーダーシップ等の学習 ・業界研究では、複数グループに分かれそれぞれ異なる業界について研究する
6月6日(土)	イノベーションⅠ	イノベーションⅡ	情報マネジメント	業界研究Ⅲ(情報収集・分析)	・イノベーションは、デザイン思考等、イノベーションに関する考え方の学習
6月20日(土)	事業開発	ビジネスシステムⅠ	ビジネスシステムⅡ	業界研究Ⅳ(情報収集・分析)	・事業開発では、事業や製品等の開発の方法、知財の具体的な取り扱い等の学習 ・ビジネスシステムでは、価値生成メカニズム、ビジネスモデルの設計法等の学習
7月4日(土)	マーケティング	知財戦略	大局観	業界研究Ⅴ(まとめ)	
7月18日(土)	業界研究発表会			卒塾式	・修了式にて優秀なグループを表彰

【アドバンスコースのカリキュラム】

アドバンスコース	13:30～17:00	備考
10月24日(土)	オリエンテーション & コーチング支援研修	オリエンテーション: RIPS実践ゼミのプログラム説明と事業計画の立案・作成の支援のあり方について学習する
10月31日(土)	RIPS実践ゼミ第5回	RIPSの実践ゼミにて実際の地元企業の事業計画の立案・作成について具体的な支援の手法を学習する
11月14日(土)	RIPS実践ゼミ第6回	
11月28日(土)	RIPS実践ゼミ第7回	
12月12日(土)	RIPS実践ゼミ第8回	
1月9日(土)	RIPS実践ゼミ第9回	
1月23日(土)	RIPS実践ゼミ第10回	

3-3 みやぎ県民大学

(1) 概要

宮城県の委託事業『みやぎ県民大学「学校等開放講座」』を受け入れ、「デザイン発想からのイノベーション」と題し、これまでの技術発想またはマーケティング発想とは異なる「デザイン発想」から新しい製品・サービスや事業の創出、イノベーション戦略および企業経営のあり方について、4回の講座を実施した。

(2) 講義内容

- 第1回 9月5日(金) 18:30~20:30
「生活世界とデザイン」
- 第2回 9月12日(金) 18:30~20:30
「イノベーション戦略と経験デザイン」
- 第3回 9月19日(金) 18:30~20:30
「経験デザイン・ワークショップⅠ」
- 第4回 9月26日(金) 18:30~20:30
「経験デザイン・ワークショップⅡ」

【講師】 権 奇哲 経済学研究科 教授

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター
みやぎ県民大学 2014

デザイン発想からのイノベーション

- 開催日時: 2014年 9月 5・12・19・26日 18:30~20:30
- 開催場所: 東北大学 片平キャンパス エクスナレーション 教育研究棟 6階 講義室A
- 募集人数: 50名(18才以上の県民)
- 申込期間: 8月11日(金)~8月29日(金)
- 申込方法: 受講応募用紙をご記入の上、FAXまたはメールで応募 ※全額出庫をおすすめします。

これまでの技術発想やマーケティング発想とは異なる「デザイン発想」から、新しい製品/サービスや事業の創出、イノベーション戦略について、講義とワークショップを通じて学習します。

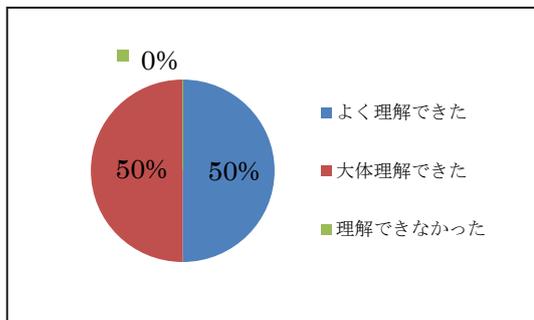
第1回	9月 5日(金)	18:30-20:30	生活世界とデザイン
第2回	9月 12日(金)	18:30-20:30	イノベーション戦略と経験デザイン
第3回	9月 19日(金)	18:30-20:30	経験デザイン・ワークショップⅠ
第4回	9月 26日(金)	18:30-20:30	経験デザイン・ワークショップⅡ

講師 権 奇哲 経済学研究科 教授

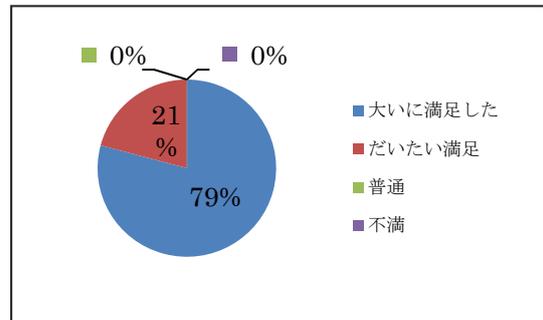
問い合わせ先: 応募先
東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 エクスナレーション 教育研究棟6階
TEL 022-217-6265
FAX 022-217-6266
E-mail s1ymso2014@econ.tohoku.ac.jp



(3) アンケート結果



理解度



満足度

平成 27 年度は、同趣旨で「デザイン発想からのイノベーション」をテーマに 4 回の講義実施する予定である。

3-4 関西起業塾

2014 年 9 月から 11 月にかけて、「関西起業塾」と題して 3 回の公開講座を開催した。これは、東日本大震災からの復興を支援したいという関西経済連合会の提案を受けて共同企画したものである。

関西の第一線で活躍する企業経営者 3 人が東北地方の若手経営人材と学生たちにこれからの東北を担うための企業づくり・新事業づくりのヒントを熱く語った。東北地域の再生は、より多くの中小企業の事業イノベーションによる経済の活性化と雇用の創出が大きな鍵を握る。そのためには、次世代リーダーとなる人材が起業家精神をもって新たな事業にチャレンジすることが不可欠である。今回の関西起業塾はそれに向けての強い意欲と豊かな智恵を得る機会となった。



○第 1 回 9 月 27 日(土)「変革する力、チャレンジする力～愛と気で創造する～」
島 正博氏 株式会社島精機製作所 代表取締役社長
わかやま産業振興財団理事長

○第 2 回 10 月 25 日(土)「「使命の経営」から生まれるのちを救うプロジェクト
～ドラッカーマネジメントを基に
予期せぬ成功を追いかける経営戦略～」

竹田 正俊氏 株式会社クロスエフェクト 代表取締役
株式会社クロスメディカル 代表取締役
京都試作ネット代表理事

○第 3 回 11 月 22 日(土)「世界に西陣織を売る～伝統産業をクリエイティブ産業に～」
細尾 真生氏 株式会社細尾 代表取締役社長
京都経済同友会副代表幹事



3-5 地域・学生交流プログラム（プロデューサー塾）

学生が企画運営するプロデューサー塾は今年で35回目を迎えた。今年度はゼミナール協議会、福島ゼミ、権ゼミの三団体が主催した。今年、人材育成の専門家、NPO を主催者、また東北大学経済学部のOBのブロガーなど多士済々の講師にご登壇いただき、進路に迷う最中の学生たちにとって有益なお話を伺うことができた。

第33回 「自己成長のためにできること」

講師：八矢 浩 氏（有限会社マイルストーン代表、人材育成プロデューサー）

主催：ゼミナール協議会

日時：2014年5月1日（木）15:00～17:30

場所：東北大学川内南キャンパス 経済学部第三講義室



今回のプロデューサー塾では、自ら様々な業種での起業の経験を持ちながら、現在は人材育成プロデューサーとしての仕事を主にして数多く人材育成の場に携わっておられる八矢浩先生をお呼びし、「自己成長のためには何ができるか」というテーマでご講演をしていただきました。

八矢先生は、ご自身がこれまで経験してこられた起業や人材育成にまつわるお話をまじえながら、その仕事の大小にかかわらず何事にも真摯に向き合うこと、一步一步積み重ねること、そして人のフィードバックをきちんと受け止めることの重要性について話してくださいました。

また、自分のキャリアを考えていく上での自己分析の必要性についても説かれ、自分の強み、弱みが何であるかを明確に自覚したうえで人間としての生き方、価値観について深く考え、自己をプロデュースしていくことが欠かせないということを熱く語っていただきました。

講演会自体の流れとしては、八矢先生にご自身のお話をしていただいた後に学生からの質疑応答の時間をいただくことができました。この時間では、八矢先生の経歴に関する質問から、起業について、そして学生自身の個人的な内容まで幅広くお答えしていただき、聴講していた学生も八矢先生の真剣な回答に聞き入っていました。

この講演会を通じて、学生自身がこれからのキャリアを考えていく上でどういったことが大切になってくるか考える良いきっかけとなり、何より人材育成に携わる方の生の声を聴くことができたのは、学生にとって非常に貴重な経験となりました。

（ゼミナール協議会学生支援局長 藤原あゆみ）



第34回「出会いは財産 ～偶然の出会いがキャリアを創る～」

講師：中山 聖子氏（NPO 法人ハーベスト 代表理事）

主催：福嶋ゼミナール

日時：2014年6月25日(水) 16:30~18:00

場所：東北大学川内南キャンパス 経済学部棟第三講義室

今回の講演には、NPO 法人ハーベストの代表理事でいらっしゃる中山聖子様をお呼びしました。中山様は、シンクタンク・教育コーディネーター・フリーランスへの転向等多彩なキャリアを経験し、現在ではNPO 法人の代表として、学生と社会人が繋がる場を提供しキャリア教育についての支援や講演に尽力なさっている方です。

中山様が用意してくださったハーベストの資料やセミナーの様子を撮った写真を見ながら、スライドを中心に講演していただき、最後に質疑応答という流れでした。

ハーベストが主に行っているキャリアセミナー・高校生向け講演会の紹介や、中山様ご自身のこれまでの経験、その中で抱いた問題意識とその解決方法、ハーベストのこれからと大学生へのメッセージ等の内容を講演していただきました。「大人と若者の学び合い」をテーマに主に宮城県で開催している、社会人・地元経営者を講師として招き開催しているキャリアセミナー、地元高校生へのOB 大学生・講師派遣型セミナーなどを紹介していただきました。参加した学生の感想を見ることもでき、私達大学生の後輩にあたる年代の意識や考えに触れることができました。

「明確な目標に向かって真っすぐに向かっている人ばかりではなく、自分のやりたいことや居場所を求めて悩んでいる人も大勢いる。そんな人が、尊敬できる人に出会い触発され、自分の可能性や多面性に気づき、人との偶然の出会いのなかで”自分で”キャリアをどう創っていくか考える機会を作る。そんな想いでこの仕事をしてきて、私と一緒にあってそのような機会を作るのに尽力してくれる方がどんどん増えていってくれるのは、大変喜ばしいことだ。」とおっしゃっていました。

参加者は真剣に中山様の講演を聞き、最後には活発な質疑応答を交わすことができました。これから自らのキャリアを創っていく大学生にとって、貴重なお話であったと共に、今とそしてこれからのたくさんの出会いを大切に想ういい機会になりました。

(福嶋ゼミ、関 健太)



第35回「継続は力。ブログを書き続けて10年で天職に出会った話」

講師：安齋 慎平 氏 (ライター・ブロガー)

主催：権ゼミナール

日時：2014年11月26日(水) 15:00~16:30

場所：東北大学川内南キャンパス 文科系総合研究棟 11階大会議室



今回のプロデューサー塾では、現在フリーランスのライター・ブロガーとしてご活躍されている安齋慎平氏を講師としてお招きした。安齋氏は2009年に東北大学経済学部をご卒業され、本講演を企画した権ゼミナールのOBでもある。

講演内容については、安齋氏のご経歴と、ライター・ブロガーという職業のリアルをお話しいただいた。また、当学の先輩として、後輩へのメッセージをくださった。

安齋氏は当学をご卒業後、日本生命保険相互会社に入社された。思い描いた仕事とのギャップに苦しむ日々の中で、大学時代より続けていた「ブログ」(執筆)を職業にしよう決心。ベンチャー企業に転職し、編集職に従事。のちにもう1社の転職を経て、2014年より個人事務所を開きフリーランスとしての活動を開始された。

「大変さがあっても情熱を注げる仕事が『好きな仕事』である」という講演中のお言葉は、就職前の私たち学生が、将来のキャリアを考えるうえで大変勉強になった。好きなことを仕事にして生きている「先輩」の姿がまぶしく見えた。

質疑応答であがった「ブログ記事への心無いコメントに傷つくことはありますか?」という質問に対し「ブログを炎上させるのが得意なんです。」と冗談交じりにお答えいただいた。その後で、意見は全て目を通しありがたく受け止め、改善すべきところは改善するよう努めるとお話しくくださった。私たちにとって遠い存在であった「ブロガー」が最後には身近に感じられた1時間半であった。

(権ゼミ、小林大輝)

4. 地域イノベーション研究センター広報活動

4-1 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム

仙台市において2015年3月14日～18日に第3回国連防災世界会議が開催された。同会議のパブリック・フォーラムにおいて、本学主催のシンポジウムに参加し、またRIRC主催でもシンポジウムを開催した。

(1) 東北大学復興シンポジウム



2015年3月15日（日）に開催された東北大学復興シンポジウム「東北大からのメッセージ～震災の教訓を未来に紡ぐ～」では、東北大学全体で取り組んでいる8つの重点プロジェクトを中心に「東北の復興から日本の新生を目指して」とのテーマでパネルディスカッションが行われた。当センターからは重点プロジェクトの一つである「地域産業復興支援プロジェクト」の取り組みについて紹介した。

(2) シンポジウム「東北地域における産業・社会の復興」



2015年3月16日（月）にRIRC主催でシンポジウム「東北地域における産業・社会の復興」を開催した。国内外から多数の参加者があり、RIRCの震災復興に関する調査研究の成果と、人材育成の取り組みについての報告を行った。

4-2 東北大学イノベーションフェア2014 Dec.



2014年12月4日（火）に開催された「東北大学イノベーションフェア2014 Dec.」の特別展示『東北大学復興アクションー8つのプロジェクトー』にて、地域産業復興支援プロジェクト「震災復興に向けた東北地域産業の調査研究と革新的プロデューサーの育成」のブース出展を行った。当日は、地域内外の企業関係者、研究者等が多数訪れた。

4-3 東北復興セミナー

東日本大震災からの復興を多角的に考えるシンポジウムとして、三井住友銀行、河北新報社、RIRCの3者共催で、2013年度から連続して開催している。今年度は第3回目として「変わる、挑む 東北の食産業 ―被災地から生まれるビジネスモデル―」と題し開催した。

4-4 アントレプレナーウイーク

(1) プロジェクトの概要

RIRCでは、地域のイノベーション能力向上のため、起業家支援組織 INTILAQ に協力し、毎年11月の一週間、世界100か国以上で一斉開催される Global entrepreneurship week (GEW) の東北版を初めて仙台で開催した。対象は、起業家、学生、教育関係者、経営者、NPO、政府関係者など。起業に関する各種会議やイベントを通じて、期間中にアイデアを共有し合い、ネットワークを広げることを目的としている。

(2) プロジェクトの内容

イベント名	日時	場所	主催
INTILAQ House Lecture Series vol.2/仙台出身若手起業家パネルディスカッション&開会式	11月17日(月) 18:30-20:45	地域イノベーション研究センター 講義室A	INTILAQ
INTILAQ sign Thinking Workshop (入門編)	11月19日(水) 17:00-21:00	地域イノベーション研究センター 講義室A	INTILAQ
Startup weekend 仙台 #4	11月21日(金) ~23日(日)	地域イノベーション研究センター セミナー室	Startup weekend
東北大学 関西起業塾	11月22日(土) 13:30-15:30	片平北門会館 エスパス	地域イノベーション研究センター
第14回アショカ・ユースベンチャーパネル審査会	11月23日(日) 10:00-17:30	地域イノベーション研究センター 講義室A	アショカ・ジャパン
仙台エシカルキャンパスフェスティバル	11月23日(日) 13:00-17:00	片平さくらホール	エシカルキャンパスフェスティバル実行委員会

イベント期間中の総参加者数： 427 人（延べ人数）

来場者の動向・アンケート結果：

イベントごとに来場者の属性や年齢層が異なり、幅広い層の参加者へ訴求できた他、世代を超えて刺激を与え合う活気のあるイベントとなった。また、8割以上の参加者がとても満足・満足と回答するなど、各イベントの満足度も総じて高く、定期的を開催して欲しいなどの声もあり、起業や新しい取組みに対する高い興味を表すものとなった。



5. その他

5-1 新聞・雑誌掲載記事一覧

- 2014年4月5日(土) 福島民報
塾生4人卒業 東北大研究センター若松サテライト校
- 2014年4月11日(金) ニッキン(日本金融通信社)
東北大地域イノベーション塾 連携金融機関 拡大へ
- 2014年4月号 宮城県中小企業家同友会 DO YOU(どうゆうみやぎ)
2012年4月東北大地域イノベーション研究センターに白石市地域経済分析調査を依頼
- 2014年6月4日(水) 河北新報
東北大「復興塾」後押し 卒塾生に助成金 米プルデンシャル財団
- 2014年6月4日(水) 日本経済新聞
東北大に1億円助成 プルデンシャル財団
- 2014年6月4日(水) 読売新聞(仙台圏)
被災地新事業に計1億円助成 米財団東北大講座の卒塾生に
- 2014年6月4日(水) 毎日新聞(宮城)
新事業創出を米財団が支援 東北大と連携
- 2014年6月4日(水) 産経新聞(宮城)
米国のプルデンシャル財団 東北大に1億円助成
- 2014年6月5日(木) 河北新報
石巻信金が企業家塾 11月まで講座13回 復興担う人材育成
- 2014年6月6日(金) 福島民友
斎栄織物(川俣)に支援金 米国の財団が1000万円
- 2014年6月18日(水) 岩手日日新聞
新たなだし開発へ 米財団 ハコシヨウ食品に助成金
- 2014年6月20日(金) 岩手日報
ハコシヨウ食品工業(花巻) 米財団から助成金800万円
- 2014年8月26日(火) 電気新聞
関経連 東北大で関西起業塾 9~11月 島精機社長など講演
- 2014年8月28日(木) 河北新報
起業の心得教えまっせ 関西の経営者が講師
- 2014年10月号 宮城県中小企業家同友会 DO YOU(どうゆうみやぎ)
互いの特徴・強みを知り合い、価値創造とイノベーションを推進しよう ~2014企業交流会~
- 2014年10月号 宮城県中小企業家同友会 DO YOU(どうゆうみやぎ)
新卒者の残る地域を~白石市が条例制定~
- 2014年11月6日(木) 河北新報
「増税で悪影響」半数 被災企業 復興の足かせに 東北大調査
- 2014年11月6日(木) 日本経済新聞
「消費増税足かせ」5割 東北大、被災地企業を調査 要因で最多
- 2014年11月7日(金) 朝日新聞
被災地企業、影響あったのは... 東北大が調査
- 2014年11月15日発行 日本貿易会月報
東北大におけるイノベーションプロデューサー育成の取り組み
世界へと飛躍するイノベーション創出を目指す「地域イノベーションプロデューサー塾」
- 2014年11月20日(木) 河北新報
食産業の未来 生産者ら議論 仙台・復興セミナー
- 2014年11月15日(土) 神戸新聞
経営破綻 被災の傷 今も後遺症に

- 2014年12月8日(月) 河北新報
第3回東北復興セミナー 変わる、挑む東北の食産業-被災地から生まれるビジネスモデル
- 2014年 政経東北12月号
東北大が被災地5700社を調査 復興を妨げる増税と人手・資材不足
- 2014年12月10日(水) 朝日新聞
「消費増税で悪影響」5割 被災地に本社ある企業 東北大調査
- 2014年12月11日(木) 河北新報
東北大 文系視点で震災研究 被災学生の現状など発表
- 2015年1月9日(金) 日本経済新聞
行員を企業革新担い手に 東北大が育成研 8金融機関が参加
- 2015年1月16日(金) ニッキン(日本金融通信社)
東北大 目利き行職員を育成 企業の事業革新支援へ
- 2015年1月22日(木) 日経産業新聞
東北大 地域復興 知で種まき 起業家「塾」で鍛える
- 2015年3月1日(日) 東京新聞
事業再開およそ半分 「従来と同じ活動できるまで」
- 2015年3月2日(月) 日本経済新聞
東日本大震災から4年 復興事業、整合性乏しく 現実踏まえ再調整を
- 2015年3月3日(火) 河北新報
地域金融機関在り方考える 仙台でシンポ
- 2015年3月14日 週刊ダイヤモンド
東日本大震災4年 復興よ、どこへ行く
- 2015年3月20日(金) ニッキン(日本金融通信社)
目利き行員育成プログラム 東北大、東北財務局が募集開始
- 2015年3月28日(土) 河北新報
地域金融の活路 東北探る新事業モデル 企業と共に課題克服

5-2 今年度の実施事業一覧

- | | | |
|-------|----|---|
| 2014. | 04 | 復興プロジェクト第1回勉強会の開催 |
| | 05 | 第33回プロデューサー塾の開催 |
| | 05 | 復興プロジェクト第2回勉強会の開催 |
| | 06 | 第34回プロデューサー塾の開催 |
| | 06 | 復興プロジェクト第3回勉強会の開催 |
| | 07 | 復興プロジェクト第4回勉強会の開催 |
| | 08 | 地域イノベーションプロデューサー塾の開講 |
| | 09 | 復興プロジェクト第5回勉強会の開催 |
| | 09 | みやぎ県民大学開放講座の実施 |
| | 09 | 第1回関西起業塾の開催 |
| | 10 | 第2回関西起業塾の開催 |
| | 11 | 地域産業復興調査研究シンポジウム
「新しいフェーズを迎える東北復興への提言」
－「創造的復興」は果たせるか、4年目のレビュー－ の開催 |
| | 11 | アントレプレナーウイーク(後援)の開催 |
| | 11 | 第3回関西起業塾の開催 |
| | 11 | 第35回プロデューサー塾の開催 |
| | 12 | 第3回東北復興セミナー「変わる、挑む東北の食産業」
－被災地から生まれるビジネスモデル－ の開催 |
| | 12 | 「東北大学イノベーションフェア2014 Dec.」への出展 |
| 2015. | 01 | 地域イノベーション支援人材育成研究会の開催(～2015.03) |

- 02 地域発イノベーション・カフェの開催
- 03 地域イノベーションプロデューサー塾 卒塾式
- 03 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム
シンポジウム「東北地域における産業・社会の復興」の開催

5-3 所在・連絡先

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター

○住所：〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1

エクステンション教育研究棟6階（片平キャンパス）

○電話：022-217-6265

○FAX：022-217-6266

○E-mail：rirc@econ.tohoku.ac.jp

○Homepage：<http://rirc.econ.tohoku.ac.jp/>



エクステンション教育研究棟

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター活動報告書
(2014.4.1～2015.3.31)

2015年 3月

東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター編